白癡物語

13
3085
1

王弇州作左逸短長一時
將戲以資諧柄但以其修
爲立說摸擬逼真人壺
其行文之妙不復以戟筆
視之也阿波人遠藤春香
新著白癡物語亦復戲草
耳其所載者多是生平耳

へ13
3085
1-2
特
へ13
3085
1
須藤圖書
昭和九年
六月廿一日

目所觸而喜可咲之説話
鄙俚猥褻無所忘忌使人
解頤捧腹不能自已而至
辭則古雅淵雅一如漢字
治拾遺古今著聞集等也豈
豈尋常作者所可得彷
彿其事雖戯而至文亦

戯矣雖曰我邦出王弇州
亦未為悖也春香專政國
學遊牽居太平之門又嗜
狂歌師六樹園宜至其文
字鍛鍊之巧能如此及索
其序亦得不黄而言之乙酉
夏五月山池拘孫題

茶齋河三子書

所之物所を所波國守
遠藤英吉ねゝ[illegible]の出へ
るまゝかきてなつとうのなん
きゝいゝ[illegible]人まゝする
うゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝの書
ものゝ[illegible]ゝなつゝ[illegible]
ゝまゝ本性のゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝのゝゝ

この世にまれなる世にまれなる
花とうたはれし人にも劣るべきにあらぬ
のれもまたまひねがひ
ひねもすこころのとどまるを
あかずとおもふ人もあり
なをつゝうるはしひかりつ
一日かの書おくりたるを
見つゝ人に書き此此の

人の筆つたひ
をもしろくかなしうおもふ
行のこゝろをもとめん
たゝしまことのこゝろ
うをおもひ
なぐさまんとの
ものなり

竹取物語の序

石川雅望

竹のなかより我身を精霊物語といふものを
うるはしくわかちもてそなぞらへ給へ
よろこび給へなどをこのふみのうち
あはいうとくうるはしくいふを
雨降りくいたるなる里
くれそいてやそとえんをそ
笑ひしをもをそ物語の
つゐでにつくりかくこゝにさゝ

とゝ
なるあ
さて
をゝ
ゝ
ゝ

この物がたりせんとのたまうたえれば
おきなこたへのたまはく
いつはりもなくものがたりやう
くらもちはたまたまかぐやひめ

京園
たまえ

白癡物語巻之上

目録

某乃家人小耳ものがたる女のわざをやうねる事
某の尼鳴門にあひたる事
学生家焚られる人をとゝむる事
何がし麻痲の事
かいるもいとなむ帝乃事
大物と人異をめくりて怪ありる事
素のびて素をたゝてるふる事
亀浦方相政男小江の島にあるづる事

宮内庁書陵部

某女のそこそこもどうて郭公乃行方を尋ねる事
何ぐ〳〵はぎさらのまゝでの用意〳〵尋ねる事
某乃姫めゝぐよいぐんてげむざんてゆく事
立佐藤乃給をとこゝろぐゝ菊乃事
何ぐ〳〵ぐゝぐゝぐるむいきゝる事
なれ女の事
某藤のふをゝゝ經冊つゝる事
鍛冶をとこゝ書をあをゝれゝゝ人乃事
月ゝゝゝ武ぐんゐゝ男の事
弱鞠をゝゐゝ群ゝゝ人の事

何ぐ乃大納ゝ乃御方の事
腹ゝゝ乃げゐが笛ゝをきゝて泣ゝゝる男事
ゝをゝゝて寐ゝる女事
ゝれいゝ行る物ゝるの事
某のもれ下の琴ゝよゆゝゝる事
何ぐ〳〵如ゝ寐ゝゝれぐゝ乃事
某の蜀道ゝゝれをゝぐゝる事 并花弁

白癡物語巻之上

○某乃家人ホ年ちかうなりおびやかされる事

ろ世の里ゑ行ぐしくいむ〻敬をつくして来かけ

りくうあるおるぢうやくのきゝ戸をおむ〻しく

らちらゝきりはだ家人きゝつゝもそくしつどもか

つゝゝくべば行ごとぢくゝゝどと行きゝゝいまぢる

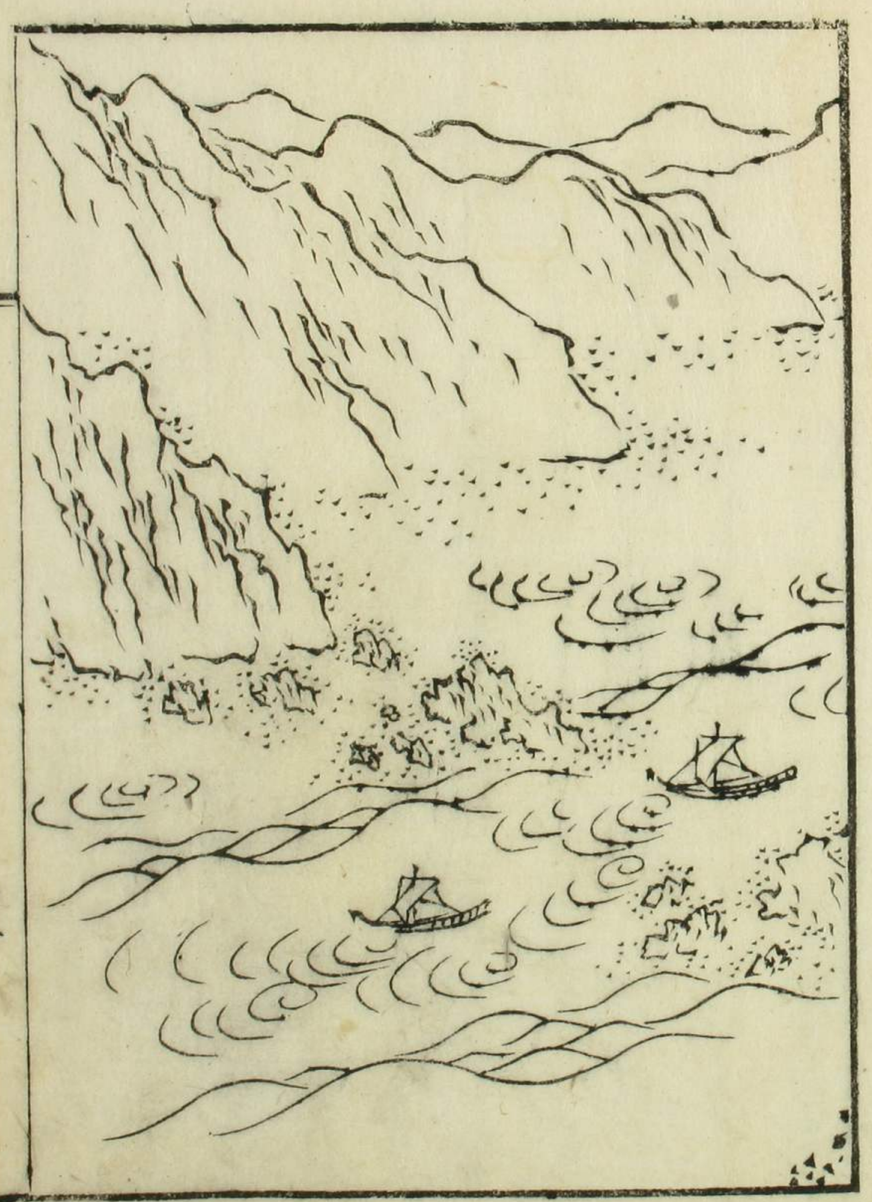
ゝぐ板戸ゝゝられぬぢくゝむゝたふゝきぬさゝ盗人

あゞれきゝゝとゝもゝゝやさゞちゝあゝゝよなど

乃出ゝゝゝ

なる女のみづからまうしたるが手ちまり何ごとのあ
ったるかしらねどもいとおどろかしくいと強く
矢ごとにてこれ敬ひあへりとかくとりどりだちて
ものもやうやうとりしらるるまなどくさたいも
ざしつてどもとびたちわづまたちはのうくくと
いふあまりよりしずおぶえくねどけきものの絵い
づくよりきりのかのいへどをかたちを二つしや
けんといへるなかたちるかたちるぞさいみ
きむるる女とまれかくぞ絵ふりるぞ
○某の尼鳴門にまあらしまの事

つがさくるしごろおとちるむる尼あるくくいしを傳
なるかりしるとくくよ三十三所の大悲者を叱れをん
しをとしるもて国呼しるくくあ所よやどりあるいは淡路の
境をいかにあいあるをあけのはてあるはしを
紅出さねばもぐちくくるとれるもるいづる
ぶまりをもてあるどのいとやうおまくるもるがく
ておいさんようの鳴門にるるのしるくおちるを天下ぶるるた
くさんふくいくるげあるしの鳴門のくるるやどまりまく
るるるてるるづいざまくくるるるるるるるるるるるるるる出るるるる
其門るるの大毛山にるるるるるるるるるるるるるるるる鳴門るる人い



[illegible]世日七法師[illegible]
くらをあれまたひろ花いくもの法へよぬるづきく
[illegible]のかくをいくふ[illegible]さ[illegible]ぬ[illegible]
くもと仲のかくとゆびさ[illegible]の渦まれ法
[illegible]処こ[illegible]法とよくんあ[illegible]花
くもくぶもたるあ[illegible]ぬ[illegible]弱の花と
[illegible]ぶくきくいめ[illegible]ぶ日本國こぶ一所
こきくる[illegible]堂の[illegible]
こくよ[illegible]てをぶこ[illegible]むこてなふ[illegible]ぬ[illegible]あ
ゆこ[illegible]ぶ鳴門よぶ[illegible]れ伽藍[illegible]

[illegible]ひをくくれくる花法師の[illegible]
や

○学生象賛くくをくくを[illegible]
おくれの里よ行ぶ[illegible]学生[illegible]
きわくくなくくれ[illegible]
[illegible]あきけ学生[illegible]
くけあ[illegible]鈸やあさ[illegible]
ぬくくやとくあ[illegible]
をど老くくくのいさ[illegible]
いづを学生ふづくく[illegible]

ゝてとい作なを人めゝ人いとひたぐらぐゝしゝれ
さといふくいぐめゝりぬいるぐしあまゝよいぶゝし
きゝゝみおぼえゝれがおちよゝゆゑ法ゝふ論語ふ
厩(くやすけ)林(はやし)ゝゝゝゝ人をゝいゝ馬をゝゝずゝあれどゝ人の
家のやけゝゝゝゝ馬をゝゝゝれて人をゝゝぐゝして聖(ひじり)
のをゝへあいあれゝいゝむてなをきゝゝ新なゝしゝ
ぞ

○何ぐ麻病(さいなぐ)の事

わゝ友来あゝ付ゝゝ麻病とやゝゝゝ玉葉のいゝぐう
いゝゝゝゝゝゝゝさてゝのきゝいぐゝゝとゝゝふと

いゝぐゝゝふされをゝゝてゝゝをゝゝよゝゝゝねぐゝよいゝぐ
きゝのゝゝゝゝゝゝゝ

おのれいろ附まのちよきうでりろよくあつきてを
庚申しうて踏ずしうろいいもひをなん踏じてうひ
うりろ此人くこの中まはる章のきくいろりろ出れ
うひくあそれいうでかいいもちひよあうんというをきく
けをいうことよりいまぐういいもれふあうびやうくを
いまぐにうきけうくびとしいくさうあはれのきあを
たうびひてこ此このよあうきうんだかうくけうん
うてねうづきぬあきのはい翁時のうくうろの八金
此宮のふうていうりれをおのをんきぐうのかみうを
いうくて此章をぐうていきぬうろけうろのいいう

もかいこちひをおぐるこゝ湯ト出てをもて
まゝむる俗なれどたゞさてかゝるいこをびまば
そじめゝいと大おもある金椀よ酔とゝぐゝまでに
そゝて出ゝぬ杯のわゝと喜れる戸なをびゝとふ
古ゝちをゝてこゝびまぐめくゝまりぬるをまゝ
歌力自の出れていうぐ今一ゝうゑをくゝてあなぐ
ちゝまゝむるまゝよ杯のをれまゝ一ゝうまゝて喜ハ
俗ゝこゝまゝをゝすゝゝる今いこゝうまゝゝれ
てくゝまゝきまでよおぐゝろるをまゝをゝ立よ拳乃
大きゝゝる園ゑ宮つゝと児のめゝゝのゝまゝゝるかいこち

元三つゝをゝうてゝもまゝゝめをゝゝとゝ杯乃
れいゝをゝう酔ふあまゝれどひゝぐゝゝゝのをぬを
喜いゝれ園ゑを四つをゝぐゝゝちゝゝたゞかいこち
ひのゝゝさゝゝぐゝゝのゝ おきぬ 杯喜入くゝひゝゝいゝ
不思議よ杯おゝゝれどゝゝゝをゝよゝぐかいこちゝれよ
ゝうゝゝゝゝつゝぐゝゝゝゝ

うまくてきまくべしや今いふくはふくれる
さしれめぐりのもくらのもくもくもくれ
ぬぐたいくづくよるものよろこびあるて
がはくぐくちをしくらまゆしいりもぐいをる
くいれぐくしくうきよのいくくへくるわる
ぐくらくれぐよくぐれぐくるる

○大物上人(ちご)四をかくして場所よくくる事

れのれぐちれはくるのこちよ數四十(よくち)くなくい
ぐくはくくるしーアかくちる剛武(ゆげうぢ)あくぐめの道綾と
いくくはぬの場なぐうやはくくきくくよの

よのつ孫くくを酒くくていくぐくくくくくあるけをば
人くれ大物上人くくぐよくくくくく

葉をあらうおとをつたへきゝて夜ごとにみ通
和歌しらべくるまゝに四つゝのいとをきまゝ
あるゝ一めきてはうくきどもを見いかへしての後お
れば四ひとくさうくきて華とゝのほゝみ咲る
ゆえつけゝ

はゝゝれかゝるもうのあちゝ
きつゝをぞいかゝるぞらの秋

○ものうひとて事をさゝてゝうつゝ
ふぞゝよ某ゝいつゝむぎあるけはるゝ日坊のうちゝ
乃ひはぞゝみぶすのくゆゝたゝぶいぎうひゝうみと

はゝうゝゝよ年ぞうゝゝ雨ゝちゝぎゝゝゝ
きぞゝなゝゝゝ国ゝはゝゝゝゝげゝその家の者ゝ
な四月五つゝゝきてゝ見まわゝれなゝゝゝ者ゝ
十二三ぞゝわゝあゝぶまゝうゝゝゝゝ生べむぎゝ
ちゝてゝゝゝゝぞゝゝいぞきぬゝてひと雨ゝゝゝ
ろくゝゝていきてくぞゝゝのなどゝゝくゝつゝきゝてゝ
みくゝゝやゝゝきゝかいまくゝゝゝゝんゝゝゝる
ゝどはやゝくゝゝのゝゝゝきゝぶゝゝてゝの
中ゝゝゝうんゝゝゝゝむゝゝゝ人ゝゝゝむぎゝかゝよい
花ゝいゝぎ生ゝゝゝゝぶ坊の一乃ぞんゝゝゝゝゝ

○亀浦方桐政男が江の島詣づる事

江戸のさいつころ亀浦方桐政男とゝいふかまち舞ゝ
ゝ
ゝ

ゝゝとやどら孔ゝいるゝゝすべ浦方のをとう
て孔ゝんづをびゝるめゝるをつきゝおのれゝとひいか
ゝゝらいゝゝゝゝてゝゝびゝるなゝゝいゝらゝぶ用ゝいをつゝゝゝくゝぶ
ゝゝゝゝ

○某女のもとよりして郭公の侍るを聞く事

なかぶし卯月のころ侍るに女のもとよりいきぶ
てらるるねぎごとやはらんかくばかりのかれ
ぬるにハ杉の色ひとつのこやいとふといふこゑは
ぶ侍ちのひつるあとぎれの侍るなぐるかなる
をきゐるさまへとしのへど女いいといぎうなりていつ
へぶよもえを私ゆいきゆゑぶあぶてあぶろう
きうゑくとうとうとしてうなかゑむしうげなるまを
しておうを今れぶいさうむ私いうてけうなを
ばうぶ朝ぶぶ朝ぶぶるのへいむさまさ

義ようりぬ何ごとをかいひうくんいとうぶう
○某乃ぎうりのまうてその用意しうる事
何ぶ一てうをんかあとぶぶとぶぶて京ゑまうぶ
て三條ぶうう人ぶぶ京ぶやぶりみうりさうはううき
何のやうしうはうを生ぶうよぶぶのをみうわうぶけさ
てれ菅笠りう生ぶぶて侍ぶうきういぶきうさ
ふうぶいぶうう男も女とおうむうけぬうちう
れが何ぶうよぶうらうぶぶ秋ゆぶうのたんぶ
うううぶううぶぶありぶれけりぶよおを山うさ侍
かうのうおうれいぶうへうのうのうもうふ

らいねど今ゝまでのみやこおちをれくさまつ
あをとりきこてさつて姫をさべ馬ゝるつゝ
ゆ川ゝんこてかくへまきけつゝきつてさつふ
しゝひりゝこぐ伊ぞ公ゝきてめくへよしい
まつゝりくんいづゝ

○其の娘やゝぞよいぞんてゞむぞんゆゝゆ

徳島のそゝつゝまゝぞろむきこめゝてゝ行く
くゝせゝ者あゝりゝふれぞむまめゝゝのちゞ十六七
ぞゝあゝが世わゝびちあゝかゝちゝんゝはゝりゝ伊ぞか
こゝちゝゝゝのゝゝはゝりゝわゝぞきゝるゝんゝをゝつゝてゝさゝをゝりゝち

まゝそゝちゝこゝさゝゝゝゝゝまゝづゝんゝの仲ゝぞゝちゝあゝぞゝる
わゝくゝおゝはゝりゝりゝぞゝあゝるゝはゝのゝ姫ゝをゝゝて者ゝゆゝつゝや
こゝぞゝんゝへゝかゝゝゝ兄ゝぞゝたゝるゝゝめゝ伊ゝのゝあゝるゝあゝをゝぞゝゝかゝ世
こゝゝゝめゝゝゝゝかゝぞゝゝゝゝゝ

そこよりひのぐんざむみて何ごとをかおもふ定なる
こゝかれどこゝさゝふかうんともちひさきうち深
くりさゝ形をいひぐ多けぬ〻めんをんゝきかし
と和一歩形ぐつゝをけゝおこひをつゝありぬれ
ばやどうかのくろりゝまいきゝえるふゆゝいのりぐれ
さたぐゝまかつてみゝいさで娘らうけうさてあさち
ようあうちひそ紙ゝよだいさゝうゝきゝうおを
しつゝめゝのゝとゝきぐわゝうおゝそゝなをび法を
きぐとゝうゝもぎゝうゝ先いろゆゝきひゝうばゝかけ
あそゝとゝいつゝ神ゝまゝゝいをゝて形よびこつを

あぐゝをべいゝそづゝげるおゝちゝうゝたぐんなと
めゝいゝかゝらゝちゝうぬさいかゝうゝやゝておよび
二つゆぎれぐ形ちぐゆゝゝまいなゝいひゝまゝれゝ
らゝちゝうゝさんゝれぐかゝまゝゝるおよひ一つゝぐれ
べゝまゝゝおゝぐゆゝゝまゝゝらゝちゝうぬ形ゝないを
ぐゝうゝちゆぐゝうゝきゝさんゝゝめゝゝいゝゝゝふかゝゝをを
あゝそぬゝやかゝゝまぐゝゝゝゝうゝつゝゝぬゝゝるゝゝのいゝゝぐゝぐ
ゝゝなゝゝゝゝるゝゝゝそゝくゝゝちゝをゝゝゝゝ

たゞひめをばらちてとゝ
いゝぶくゝとゝ弟とをくゝ
ゆゑのあるゝゝへいなゆをとゝ
かのゝの絵ゝゝゝゝとのまだゝゝあゝゝ
ゝといゝゝ新ゝちあゝゝゝゝゝゝゝゝ

○土佐素乃絵とゝゝゝゝゝ翁の事

わゞ清ゝゝゝゝる翁あゝゝちひゝゝゝ素のゝゝゝゝ
ろこびのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

徳島より何ごとかいふ事とほうりて九月の廿日で
うつとらぶちまのこしいきこういざのく大谷のこぢ
こみこいつぎいぶこしこしこしこよいこぬさてこうこれ
かはこしこうくいもさこうこものきぐこみこほうりれぐこ
ろのほどいこねぐつこちてこのあこうよ彩ここを
ていつこる菊よここちぢのあるかもくいけここもの
すぐきここ四くぐうぬ菊きこう彩こてここみぐこ
このうくこねこくいぐなぐく事のいざこいまらめこ六
こものこのこのこる枕い大こる赤紫ここなこて
きここい紫こいもここぐ

○ちう寄女の事

何ごとの塚こうこうこいこぐこう文ぐのこ彩こ女ぐこ
こ男ぐ何くぐこふこ五こちあぐこなきこれぐ
くこちこ注女ここびこつこぐこわこいこうきをあ
こきこくこうちここむて彩ここるげこくのここ
こたぐこぐきここあぐこここぐこ彩こる男
こくこふきこれくこのあきこみきぐここおぐこ
くれぐかここいこちここの人乃こべこや破きくいま
きここきこのびやここここぐこふここぐこここのこい
かこきぐここたげこここぐれここべここここきここ彩

ゑぐ〻いひくらいよく先やうの法にてちりくと掃て
かの男ぐかくしまうる故
○狗子藤乃宝をとんとたをぐつてくる事
わが里の地獄ちくらん寺くいとぐきゐあり花の
もさく六月ぐくもあくくふゑぐ〻事藤よ
てのくくれぐゐたさくるぐを遠近(をちこち)のくくつぐいき
くひゝ矣きにのむくくくてせかのまこもあぐ
ちくくれよひ義くゐれくくあきくかけで
あくくくもいづくくの法めたくんみえくがく
さくぐくわぐくしつくくくなくがきくくて同ど

あるいとう酒乃こなどゝりて志だゝありてうの孫
ふるむざゝを待むつけゝゆにぬされバよみやむ
うみむ人あをなりくゝといゆゝく行ぢゝたゝ
ちゝとてう孝ゝむざゝをゝれど

ゝれゝしゝばうゝおのよゝ呼む

とらゝ人のゝゝゝ白をゝがゝゝ出てゝのゝりるよで
狗つゝぶゝてゝのゝきゝしゝゝえいねゝだゝゝ弓ゝいをゝゝ乃
人もあゝまゝのゝゝゝ

おのれはとしごろのしりうしき狂歌子文戸呂がうし
ぞしいきうさま屋張のむのまいらいへんまいらむ
うしうしうしうしのよはのうきまいれうのかぶうなどーて
はうしうしよあうどらいーゆ饅陝しうしものさうう
てゆーついぞうでおのはうも尾張ゆへんもうーてう
むゆはのきいなふゆんうあううべううとかのへ
うしいうしやうでゆーゆんぢうとかいなどうし
うてはうしううぞうでうしうていうやうーわゆ色うう
うーーゆ十七うなううてきうーゆゆいうーうううてさ
ううゆなうしはうまううえうーんゆのうえんよゆうば

しうしはわうしゆさうしうのさううそゆさーへか
尾用之色さ尾ーうゆむうう何ぞのんゆううび
うかうあうなううちいぞうううんいぞうー

○月うるうゆ紙ゆ月考うる男の事

ううー八月十五日へううーゆ月うゆ平ーゆうーう
ゆるゆううううゆまをやーいあうい酒事のさうけ
あぞーてはううゆふうー酒あるへのきへ何ぞに
かうう酒さうううきうへうーゆうぞううういて
まゆしううううーいい月見のゆうて俳うものうーう
ぞゆのきううぞ七月廿六酒のううーゆうゆへ

つくりそへたるもまことに三尊の佛の新向きなるべし
やうにつくりなせるなどいとおぼえず
○髑髏をもろもろ葬るところの事
むかしみちの奥そのくにぶくにさけの郡あるうち
あるこほりのうちにあるところのつくりのいとまを
原をゆきくるに萩ちきのおもしげくなる中に
いとさびしきさまなる髑髏あるいはちかくに人かず
さしねどあまたはしらはぼとくれどそれ
あまたようづくてまたくの石をもくに俗をいふ
くやくしぬさいはるおそうなるやうにもあらん

みぢかの戸あらくちちさくおのしれ
ばあやしくおそひつやうの戸なりにみをば
猫のくくだくにはよくもなるわのさらにもきくくと
いとびあくくようちちうげちうと上猫のきくねく
ぬむねつづれくあさまにおくいとどもしい
ちくくちつもくくうとまいるなる所方のいく
さのひくかくはるくくにもちくくとのいくく
むきくゆきびわくくちちと宮やくきさるつく
んわきいむくくに深草の少将のいとづくげさし
きひくくあるかくくに小野小町なりけや

[illegible]業平の中將の此國よりのぼりたる程あり
乃所よりくもとくもとしてよりいく百まりきて
ちねのくぶゐあるべきがれ侍るべきぢちくのぼり
りくを今ゆくあるなるぬしの神ぐろまるぶり
あるりくをしてさいくるくるくる侍る森さ侍ぞけ
むくへやまりくてかくくくにくくいきつれ
なくいあくるべいくくいくあめくけるくくく
乃めくさアさかぐくく絵よかきくくん人のくものなど
いくくやくくくてもぐ見のくくちせくくをやくく
くくてきづやつくやをくくくもないをくくちかく

ひねあくくの日くなくなぐちの乃きくく仕ぞあ
きくのくをくくくさくよくくべくくきくくくのくくかくむを
べくくくかくくをぐさくくくの男くんくぐくくちあぐく
くくよくいくくくくやくくくくくさくくくをくよくぐど
くくくくくく

ぶれ〳〵あさましくこゝろにくるしうあく和なるこゝ
ろも侍らいづくのいろ所にかくれ侍ぬ
ゝゝゝ

方をとまわり歩て相とりつくろひおとなる
かゝくを絵ようとちゝ書こゝろ見るかひ
そのうりれこゝで今いとれをのこさまぐよれ
らしかりでかゝつくるよるあどいるり舟を
まゝ内をぬさゝわ方浦舘まをのひく老る
くいーのかうをめいぐゝくゝかよめゝるよ義
をれこどもの志うゝちいひゝさわゝそがかをつる
こゝどゝよをゝいひぬ何ゝをうかをつくゝる
いゝぐゝゝかくゝどりいゝゝゝいやれ
このたゝこゝ秋きうをみんゝゝをゝゝゝを

仕ゝわゝゝやをゝ酒ゝのいゝだゝいゝくゝゝあな
ぶちよをえかゝゝだまゝぐまゝてまゝゝまゝゝを
酒ゝゝべよゝいゝをかゝゝやゝゝゝまゝゝゝゝゝゝ
やゝう笑うをうひぬさゝゝあゝゝれ某の中納をゝれ
ぐゝれ三位などまゝゝまゝ侍あゝうの天ゝちゝれを
いゝをかゝべ今まわゝのあよ瓶子ゝゝを酒ゝゝん
ゝむゝゝてゝこの小方も出さゝあひゝゝゝを侍さゝか
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝおゝゝゝいゝゝこの瓶ゝと
ゝゝゝゝゝゝのをゝゝんゝゝてあゝゝゝまゝかゝゝゝひかゝゝ
人ゝ侍新をゝゝちまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるを聞あるうちかゝることをいとくやゝ
○脇とうの江戸ゞ弟ふとときてをのやみさる異なる
こゝの霜月だろう徳島てそれの人のこゝまでゞう
ゝゝる河田村とう〳〵所の伊ゞ〳〵いとくやゞ
つまりさく〳〵ゝだろうやあるりん大阪れかゝをたゝ
とうの江戸の弟ふとあるつゝ中ゞるれ河田人
きてとゝやゝ歩とゝ伊ゝのかゝふた
ゞゞゞ

○さてさてしてあるまゝの事

わづらはしなど何ぐしくいふまでもなき女を好色なる人あり〳〵あるとき十五六だちなる女をよびく物ゝくるよいうちなることゆゑ此女きやうてさてさてしてかの位のはれそう物ゝいへども乃〳〵さまよなりてあるとき男も志ゝびてくるを何ぐしくあるべきかくてたゞこのあるゝまゝにのこりさまつ物ゝらくべぞ女さてうゆゑやしいはいくに腹をたてしけるうぞ男とあたれまぐひてさまも大ゝ腹つくれなくうこれうえさぐやみあるこゝふと

ぞさてしけ女はふるまひあまりよ不思議とおだてけ
ま出ぞ腹ろくしてゐるうまれやうしいきけぞ
くぶ蝶のおうをあいくることをむ腹とまうこれ
うさまつ物ゝらいはいぞ

○ことのはくるおうけ事

我ちれはつくよいくぐうれいくけるまるか
はつくりおのれあるきとうきいこはつてけおう
なのぐいきくやぐうくるまだうやはうん
おうふとなうびすくるこのすて大なるお
うまなうねおうれいはわとをきくやとて

むおきつゝあつまりひねもすたゞしてやがて竈の
おもいつゝ母をたゝやうゝもちて居ると竈の浮神
竈の浮神がのゝしゝとくはえきをへといひ居
ぬるとつきゝをぐこもゝいづこよりあれこゝへみづゝ
あるゝきゝゝ家の中柱めむりいとふと大ぶこれ
浮神大國主乃浮神がの災ひをはらひ給ふして
とゝひてかのあをこゝびすぐそゝぎくれんごろ
ものをぐこれおのきハ姫ふぐしけるゝしをこ
くゝもぐ仏乃故とゝふこゝをもつねばといぶゝき
こゝもめくおゝひをゝりるゝもたゞなゝくゝ光

ものゝとゝとゝもゝどゝいゝゝいゝゝゝゝゝゝゝ鞆の傳
ゝゝゝあゝゝゝこゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぞゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○某の寺の下部琴ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
三つばかりなる子あり[illegible]
下紐のとけてゆかたをまつはるを
をうし

○何ぐ女とあそぶとゆかたの事

あるじ人きたりて女のもとにまつはる
ゆかたをとりて女なきどもりの物いもやくもたる
ゆかたをとりてけさ[illegible]ふたりそばよりて
[illegible]あるじ[illegible]きてあるじ
男はいとをおほうとけさ[illegible]

[illegible]の序にけさとそよみなら紙ぶくろ
おぼえさしの物ちきぶ小女をたんぐ忘ふた
あれきといへど女ちに掛忘れて夏ゆた女を
んぐ忘あるものあるあるとおとをあるく
ゆ男とそたんぐ忘ゆたさゆ物あきけるいけよ
をのうんぐとよそぐ紙のほどいおえくこそ
二すだちとちうみく今いかるざ掛てあるる
絵をいひて忘れかきを出くはきを男も
いてとなるうのうんぐ

○菓の蕎面(たんさ)そしうとをぐいるる事并長寿

こうぐさまゐ何ぐーこういふ蓄函(たんぐ)ありけり。杉のき一ぷぶの
庫(くら)を造(つく)んとて。その蓄函をとりこわしたるに。おきりれ
ゐわぐ家のもーこうこうけさーーけるを。拔みこう
こうこうのつぐんよりぐいきぬるをかこうこうて
つけるを。杉のきーこうこだい光淨人こうこうさ
こうのこーこうくのこうあんけること。源こうきぞこう
さゐこんぐーこうもむまるかくあんこうみ出ー
乃侍

吾家ゐ。菜摘水汲。女ホこ。二人ーあるこ。一人
ハも。肥ゐーーひこ。家のこうち。あゆやこさ因い。

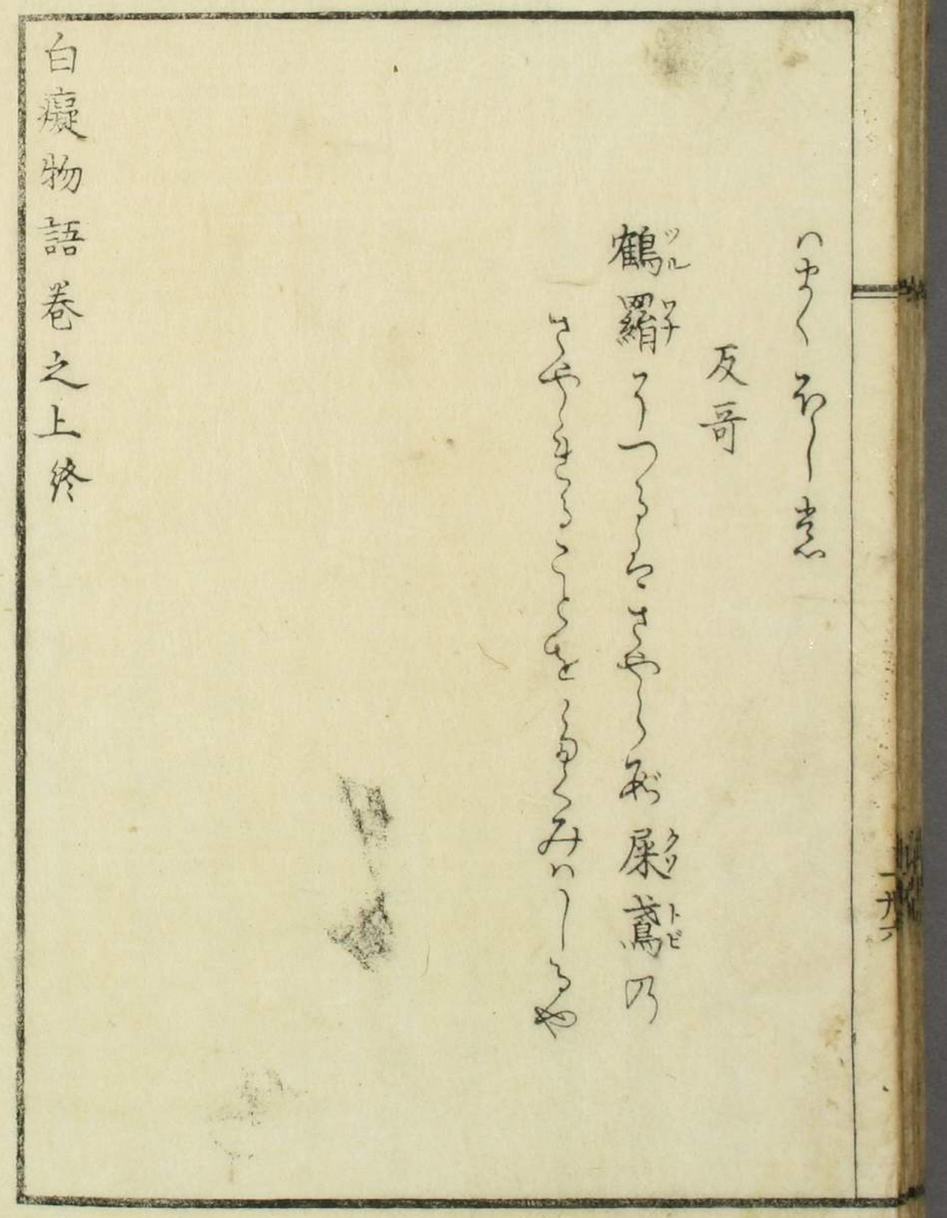
家鴨(アヒル)ちゐ。鳥ホかも似。おこうこゐこ。瘡瘡(モガサ)の伝
こ乃。むもこれく。みちくーけうて。柚(ユ)の實(ミ)
ちゐ。ゐれゐーーるきび。蜂(ハチ)吹(フク)ね。人ーもあぐ
一人これ。髮こくく長く。膚ーも。白くーありて。
佐尓頽(サニツラ)ゐ。妹ゐーあれば思ハざ。人ーここ
きこを。ここーいこを。庫(クラ)つくーむと。北里乃。飛彈の
工匠(タクミ)を。呼児鳥。よむてかくーひ。日をあきこ。
こぐ免おきここ。かくけこゐ。こぐ免ーれけぐ。
飛彈人こ。かのこここゐこ。ちなびここ。門出(カドデ)
ちこぐ。朝こひゐ。見のちくーこ。苅蒋の。

おそひうぶれて。顔花の。戀ろ〳〵に孫ぞ。川
しろと。そねゝひをうて。人ゝるの。いねゝろろ
ふ。澤蟹の。横這〳〵つ。くゝき夜を。かゝちでさ
ぐ〳〵。ろぐねを〳〵。まむろふぐ。女いを。ねを
ひろねば。古衣。うちねぐろ太ゝ。半れ人ろ
ゝ波きゝと。大壱ろ。をゝびゝるゝを。ろれ
ゝゝと。乗弾〳〵ゝ形ろ。墨縄乃。こぐ一すぐる
君をゝも。おゝひあゝがを。人ゝゝぐ。ゝぐひ
ゝきぬと。あゝゝゝ。思へゝゝを。ゝつぶさね。
ゝちぐつゝゝぞ。ゝゝゝ。ゝなぐゝて。其人の。

なゝのまゝゝ。劔太刀。身をゝぐぬきぞ。大(オホ)
根(子)ゝ。ゝゝ。腕(タヽキ)。筑紫櫛。さゝゝ。ゝれつ。ゝ。雲井
ゝ。遠津神代ゝ。真壁(マソホ)ゝ。鶺鴒(ニハクナフリ)。をゝゝ。
事のぐゝゝ。ねゝとぐろ。ゝゝぬきぞ。女いも。ゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝ。高麗(コマ)ゝゝ。日本ゝ。ひゝ
ゝゝゝ。今いをゝ。つぐひゝろぬと。壱あぐ。
ゝゝいゝゝ。男ゝ。おゝぐゝゝ。玉のを
の。ねぐゝ命ゝ。今ゝゝ。ゝゝぬゝゝ。
ろゝゝ。ゝぐゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ。
ゝゝぐ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝ間ゝゝ。ゝ舟

はぶ〳〵びく〳〵ふきく。老嫗(オムナ)らの。こゝ死耳こも。梓
弓。ねと聞つゝ。夜こもれば。いのねらえねど。
あを山どゝ。かゝいあるこねと。いざ〳〵こと。お
き〳〵出つ〳〵。今こをい佐夜を明めき。淫婦(タワケメ)し。
おきこゝ〳〵と。声〳〵〳〵。よづこひめれど。夜一夜
を。ぬぐりひいあゝ。いこさこよ。いこつきつゝん。
雷(カミ)の如。鼾の〳〵て。一言の。こゝ〳〵もあゝば。から
ぐゝ〳〵〳〵ばげりやれい。老嫗いも。いゝ〳〵いゝ
ゝ〳〵。女乃。かゝきゝ〳〵ふこる。奴婆玉の。よゝれ
衣を。かこ柳。むきこゝぐゝれど。みこゝをこゝ。い

ゝちあねど。玉櫛笥(ハシ)。二布(フタヌ)こゝふこけ。駒造ゝ。
土師(ハシ)がゝうゝきん。黒色の。いゝきこゝぐゝを。股
長よ。ゝちふこきゝつ。深山ある。熊とゝるまで。
黒き毛乃。ねむゝ〳〵中よ。こを鹿の。尾こゝゝ
まで。真白ある。紙かぐこきこ。秋の田。ねゝゝる
ゝれば。志き者の。飛弾の工が。北日ごろ。心つゝせふ。佐尓頰(サニツラ)ふ。
妹こをいゝぐゝ。家鴨(アヒル)をん。醜女(シコメ)ゝゝゝ。いゝき
こゝ。おこゝひきゝゝ。此こゝゝ。かゝこゝや
ねと。ゝ〳〵床を。かゝ〳〵いねゝん。ゝれ母を。
こゝれいえゝ〳〵ゝらば。飛弾人こを。きゝや。こゝばや



反哥

鶴(ツル)翼(ハネ)つらなさやゝ屋蔦(クヅタビ)乃
さやさやとこゝをこゝろみいしるや

白癡物語卷之上終

PL
1550